

読書活動を取り入れた物語文の読み深め

「注文の多い料理店」(宮沢賢治作)

愛知県一宮市立葉栗小学校
尾関 利子

はじめに

一宮市では、豊かな感性や情操・表現力・創造力そして、思いやりの心等を育み、児童生徒を本好きにするための読書活動の充実に努め、「読書の学校」づくりを進めている。

六十一の小中学校では、その一環として、朝読書を行っている。また、読書に親しみ、読書好きな子どもを育てるため、ボランティアによる読み聞かせ、親子読書、ブックトーク、アニメーションなどの読書活動を中心とした取り組みも行っている。この学習を通して、各自が作品を読み、考えたり感じたりしたことを話し合い、交流する中で、読みが深まっていく楽しさを味わわせたい。また、児童一人ひとりが自分の課題に向かって読み取る活動や、読書活動を含めた学習形態を取り入れることで、楽しく参加できる授業を考えていきたい。

単元について

この作品は、二人の紳士や山猫の会話、扉に書かれた言葉、多彩な色、場面を転換する描写などに表現上の工夫があり、本を読むことに抵抗を感じている児童も十分楽しむことができる。

児童一人ひとりが、この物語を通して、考えたことや感じ取ったことから、互いの読みの交流をする。そして、その読みの相違に気づき、話し合いの中から、個々の読みをさらに深め広げさせたい。

単元の評価規準

関心・意欲・態度

話し合いを通して、読解を深める学習に積極的に取り組もうとしている。進んで読書し、友だちと交流している。

話す・聞く能力

主題について考えたことを、理由や根拠を

明らかにして話すことができる。
書く能力

感じたことや考えを自分の言葉で書くことができる。

読む能力

物語の展開・人物の心情の変化について読み取ることができる。表現上の工夫に気づき、主題について考えることができる。

単元の指導計画(十三時間扱い)

- ① あらすじをつかみ感想を書く。
- ② 読みの方向を知り、課題をつかむ。
- ③ 課題を意識しながら、物語の表現上の工夫に気づき、登場人物の気持ちや様子について自分なりに読み進める。
- ④ お互いの考えを出し合って交流する。
- ⑤ 読んで分かったことをもとに、主題について話し合う。
- ⑥ 宮沢賢治の作品を読み、交流する。

単元での授業のポイント

読む力の向上を図るためには、教材と関連させた読書活動の実践方法を考えることや、自ら課題を見つけ自分なりの読み取り方を習得させることが重要である。

①読み聞かせ

②アニメーション「前かな後かな」

③ミニ読書会（二人・三人）

（グループ）

（二斉）

④ワークシートの活用（心情・様子・考え）

⑤振り返りカードの活用（個の支援）

⑥派遣司書との連携（レファレンスサービス）

⑦ブックトーク（作者の思い・自分の考え）



本時の展開（4・5／13）

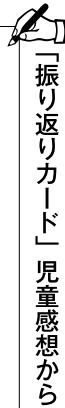
1めあてをつかむ。（山奥で道に迷った二人の紳士はどんな人物だろう。）

2読み調べる段階では、物語の筋を正しく読み取るため、ワークシートで図表作りをする。

3読み深める段階では、ミニ読書会の形態で、二人、三人で読み取った感想の意見交流をする。自分たちの交流の発表をする。

4振り返りカードを書く。（友だちと仲良く楽しく活動ができたか。正しく読み取れたか。思いが言えたか。授業の感想など）

5学習した場面を音読する。



「振り返りカード」児童感想から

- ・友だちと話し合つと、二人の紳士がどんな人がよく分かる。
- ・グループの人の意見を聞くと自分と違う意見があることが分かった。
- ・ゲームなのにその話の内容がよく分かり、楽しみながらできた。

おわりに

読書活動として、アニメーションを取り入れたことで、児童のコミュニケーション能力を

培う場となった。

ミニ読書会では、意見を交流することで、作品を読み

深め、お互いの考えを比べたり、広げたりすることができた。そして、

ブックトークを通して、主題と結び

つけ、さらに六年で学習する伝記（宮沢賢治）の学習への橋渡しができたと思う。

派遣司書との連携を図ることは、宮沢賢治のコーナーの設置やレファレンスサービスを受けることができ、読書の幅が広がった。

こうした経験をもとに、読書生活への変化が見られるようになった。このことから、読書活動の実践を積み重ねていくことが、個々の読みを深め広げることへとつながっていくと考える。



おせき としこ 現在、愛知県一宮市立葉栗小学校に勤務。二十数年学校図書館教育に関わってきた。最近では、全国学校図書館研究大会において、本市学校図書館の取り組みや公共図書館との連携について提案をした。